

# 日本メキシコ学院における国際理解教育

## —— 互いを尊重できる関係づくりの実践 ——

前日本メキシコ学院日本コース 教諭

千葉県千葉市立幸町第一中学校 教諭 飯 島 伸 一

キーワード: 国際理解教育、国際交流、日本文化

### 1. はじめに

私の勤務した日本メキシコ学院は、メキシコ合衆国メキシコシティに位置し、日本人の児童生徒が通う日本人学校（日本コース）とメキシコ人の児童生徒が通う現地校（メキシココース）の併設校である。メキシコ合衆国の公用語はスペイン語であり、日々の生活の中で本校の児童生徒が日本語にふれあう機会は非常に限られている。そうした中、本校（以下、日本コース）では、文部科学省の定める学習指導要領に準拠した日本の教育活動がメキシコの地で行われている。

1977年の開校以来、本学院では建学の精神に基づき、日本と同程度の学力保証と国際性の伸長が2本の大きな柱となっている。これが、他の日本人学校にはない本校の特徴でもある。日本・メキシコ両国の交流の象徴として位置づけられ、併設する両コースの「交流」もその大きな役割を担ってきた。私も着任年度（2011年4月）以降、両コースの児童生徒による「授業を通しての交流（2011年算数、2012年道徳）」を行ってきた。しかし、交流の継続性・系統性、日本語とスペイン語の言語の壁、両コース教員における交流・打ち合わせ時間の確保等、課題は残されていた。さらに、メキシコ国内の社会問題（貧富の差・ストリートチルドレン・麻薬等）により治安も決して良いとは言えない状況にあり、生活にも制約がある。そのような状況にあり、日本コースの子ども達に、メキシコ人に対する悪いイメージや偏見もあった。互いを尊重する心を、実際に交流し、お互いを分かり合うことで育てようと考えた。

### 2. 交流活動について（小学部6年生対象）

#### (1) 交流活動の目的

国際理解のために必要とされる資質・能力を「互いの尊重」と捉え、日本とメキシコの児童による交流授業を通して互いを理解し、互いを尊重しあえる関係を作ることを目的とした。そこでこれまでの研究の経過をふまえ、今年度はわが国の伝統的な楽器である和太鼓を通じた交流をすることにした。まず自分たちが和太鼓を練習し、自分たち自身が日本文化を理解する必要がある。それをメキシココースの児童に紹介し、一緒に練習を重ねる中でお互いを理解しあうことができであろうと考えた。児童が積極的にコミュニケーションを取れるようにするため、具体的には、①事前の準備・練習を計画的・継続的に設定する②交流授業も計画的・継続的に設定することにした。

#### (2) 活動の流れ

4月～5月 学級で和太鼓の練習:この期間で、日本コースの児童はメキシココースとの練習曲を楽譜を見ないで演奏できるようにした。

6月 和太鼓交流授業

① 6月4日（火）4時間目 メキシココース a 組「自己紹介と和太鼓練習」

② 6月11日（火）4時間目 メキシココース a 組「和太鼓練習」

③ 6月18日（火）4時間目 メキシココース a 組「和太鼓練習」

④ 6月25日（火）4時間目 メキシココース a 組「和太鼓練習」

※ 6月25日（火）1時間目 メキシココース γ 組「自己紹介と和太鼓練習」

※6月25日(火)5時間目 メキシココースβ組「自己紹介と和太鼓練習」  
 7月 合同演奏会の実施:演奏会を設定することで、両コースの児童にとって和太鼓練習の最終目標として位置付けた。

⑤7月2日(火)4時間目 メキシココースα組「合同演奏会当日」

9月 ⑥9月26日(木)にメキシココースα組と算数(小数のかけ算)における交流授業  
 ⇒この時にはこれまでの継続した交流授業で、両コースの児童の人間関係が出来てきた成果もあり、終始和やかな雰囲気の中で授業を展開することが出来た。

その後も、運動会に向けての鼓笛隊や競技の合同練習と本番の計10回、天皇誕生日レセプションパーティーにおける和太鼓合同演奏に向けての合同練習と本番の計4回、その他死者の日(日本でいうお盆)交流、クリスマス交流等により、合計24回メキシココースと交流を行った。

### (3) 和太鼓交流授業と算数交流授業後に実施した児童の振り返りアンケートの結果

※メキシココースα組との交流時限定

振り返りアンケートの項目としては、1「授業は楽しく出来ましたか」、2「自分の考えを伝えることが出来ますか」、3「相手の考えを理解することが出来ましたか」、4「交流授業をまたやりたいですか」の項目で行った。2と3の項目が変化が顕著だったので以下に示した。

児童の名前に対応 ↓	項目 回数	2自分の考え						3相手の考え					
		0	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	6
1		4	4	3	4	3	3	4	3	3	3	3	4
2		2	3	3	3	4	3	4	4	3	4	3	4
3		2	3	3	4	4	4	4	4	3	4	4	4
4		4	3	2	4	3	3	4	3	2	4	2	4
5		2	3	4	3	4	4	3	4	3	3	4	3
6		3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
7		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
8		1	3	4	4	3	3	3	3	3	3	4	3
9		1	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
10		1	3	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4
11		1	2	3	3	2	3	3	3	3	2	3	3
12		2	2	2	4	4	4	3	2	3	3	3	4
13		1	3	4	4	4	4	4	4	3	3	4	4
14			1	2	2	3	3	3	1	1	1	2	4
15		1	2	3	3	3	3	4	3	4	4	4	4
平均		2.1	2.9	3.3	3.6	3.5	3.5	3.7	3.3	3.1	3.3	3.5	3.8

- 1. できなかった
- 2. あまりできなかった
- 3. まあまあできた
- 4. できた

※この児童は今年度からの転入生のため、交流経験がないので空欄。

表1 和太鼓交流授業と算数交流授業後に実施した児童の振り返りアンケートの結果

### (4) 和太鼓交流授業と算数交流授業後の児童の感想

①6月4日(火)4時間目 メキシココースα組「自己紹介と和太鼓練習」

- ・メキシココースの友達、練習中私たちが大事なところを説明しているのに、おしゃべりに夢中という場面もありました。日本のようにけじめをつけるべきだと思います。  
 ⇒後に、メキシコ人は楽しいときに、体を動かしながら時間を共有することを知った。つまり、太鼓を楽しんでくれていた。
- ・よかったところとして、太鼓の片づけを手伝ってくれました。
- ・日本人がメキシコ人に文化や習慣の違いを感じるのと同様に、メキシコ人も日本人に違いを感じていてはいないでしょうか。

② 6月11日(火) 4時間目 メキシココース a組「和太鼓練習」

- ・ 2つの工夫をしてみました。1つ目は身振り手振りをして教えたことです。2つ目は、ウノ・ドス・トレス・クワトロ…と言ってテンポを教えたことです。そしたら、メキシココースの友達が上手に打てて、とてもうれしそうに笑っていました。
- ・ 前回よりうまく教えることが出来ました。自分の言いたいことが前回より伝わった気がします。
- ・ もっとスペイン語も覚えたいと思いました。
- ・ これらのことで感じた文化の違いは、比較的冷静な日本人に対して、メキシコの人たちはノリが良くてその場を楽しくしてくれました。うらやましいと思いました。メキシココースの友達に、話を聞くとときに「シーツ」と言ったら静かにしてくれました。日本人の習慣を受け入れてくれているのかもしれないと思いました。

③ 6月18日(火) 4時間目 メキシココース a組「和太鼓練習」

- ・ 共通点もありました。それはわからない仲間がいれば互いに教えあうことでした。僕たちのことを分かってくれたメキシココースの友達が、まだわかっていないメキシココースの仲間に教えていたことです。
- ・ メキシコ人も、仲間わからない人がいれば助け合っていました。これは日本人と同じです。
- ・ メキシコの人でも、できないものがあれば自分たちでできるように努力するところは日本人と同じです。

④ 6月25日(火) 4時間目 メキシココース a組「和太鼓練習」

- ・ この交流を通して、メキシココースとの仲を深められたし、メキシココースの友達が日本の太鼓を好きになってくれてうれしかったです。苦勞もしたけど、それよりも嬉しいことがたくさんあって、今までの交流の中で一番最高の交流になりました。
- ・ 練習でできなかったリズムも次のときにはできていました。自分で練習したとしか思えないです。このように頑張っていることを知り、僕も頑張ろうと思いました。
- ・ 練習ごとに最後には「ありがとう」とお礼を言うところは日本もメキシコも変わらないと思いました。
- ・ メキシココースの友達も本気になるやっているとしました。本番は必ず成功させたいと思います。

⑤ 7月2日(火) 4時間目 メキシココース a組「合同演奏会当日」

- ・ 何回も交流するにつれて、コミュニケーションももっととれるようになりました。発表も成功したし、友達も増えました。日本とメキシコの文化についても考えることが出来ました。
- ・ メキシコの人たちとたくさんかかわってみたら、とてもいい人たちでした。ほかの国の人たちにも日本の文化を伝えたいくなりました。
- ・ 本番で太鼓をたたいている時、メキシココースの友達と心が通じたような気がしました。最後に、お礼の手紙を渡そうとしたら、メキシココースからもプレゼントがあってびっくりしました。
- ・ 交流を通して学んだことの、1つ目はどのような外国人でも、自分たちが工夫すれば分かり合えるということです。2つ目は、分かり合えて気持ちが通じ合えると、とてもうれしい気持ちになることです。
- ・ 僕たち日本人がメキシコ文化に興味があるように、メキシココースの友達も日本の文化に興味があると思いました。
- ・ メキシコは犯罪も多くメキシコ人に対して悪いイメージがありましたが、実際に関わって、とても楽しい人たちだということが分かりました。

(5) アンケート結果の分析

注目すべき所は、質問項目2「自分の考えを伝えることが出来ますか」である。交流授業実施前の0回のところで平均2.1に対して、回数を重ねるごとに数値が上がっている。また、質問項目3「相手の考えを理解することが出来ましたか」も、回数を重ねるごとに数値が上がっている。

これらの要因としては3つあげられる。1つ目は、授業の内容を和太鼓にしたことで事前に2月かけて自分たちが覚え、到達したい目標を子ども達全員が明確にもつことが出来たこと。2つ目は、同じく授業内容を和太鼓にしたことで、リズムで伝えることが出来ること(身振り手振りや簡単なスペイン語でやりとりが出来る)。3つ

目は、回数を重ねたことでお互い、言語の壁以上に心的な壁が低くなったこと。これらの3点が考えられる。8回目の交流では、お互い気心しれた仲なので、また扱う内容が数字だったことも助けて、取り組みやすかったものと考えられる。課題としては、この8回の授業のために教師も児童もかなりの準備をした点である。しかし、取り組むことで成果も出るので、児童にとって大きな達成感として残ることは言うまでもない。貴重な経験であることを考えると、無駄なことはなかったと考える。

### 3. 交流活動の成果

交流授業中は教師主動ではなく、あくまで児童中心に自らの意志でコミュニケーションをとることができるようになった。和太鼓の練習に2か月かけて曲を完全に覚えることで、児童が自信を持って交流できたことによるものと考えられる。前年度まで課題であった言語の壁をリズムで伝えあうことで解消できた。また、交流をメキシココースの同級生と継続的に行ったことで、回数を増すごとに緊張がほぐれ、和やかな雰囲気へとつながった。児童一人ひとりの自発的なコミュニケーションがとれるようになり、これを児童が実感し、それが次の交流への自信にもつながるという良い循環になっていた。児童達は、はじめ日本との文化・習慣の違いを感じながらも、相手も日本の文化・習慣に違いを感じているのではないかと考えた。すると、日本人にないようなメキシコ人のノリの良さや、うれしいことを体いっぱい表現するメキシコ人の習慣を素敵なことであると感じるようになった。さらには、日本人もメキシコ人も、できない仲間がいれば助け合うところや、目標に向かって自分自身でも努力するところ、感謝の気持ちを「ありがとう」の言葉で伝えたり、あふれる思いをメッセージカードやプレゼントに表現するところなど、共通点も見出すことが出来た。いつしか授業の終わりのときの別れ際に、日本コースの児童とメキシココースの児童が「ハグ」して終わるようになった。日本コースの児童達がメキシコ文化を受け入れ、両コースの児童の気持ちを通じ合った成果であると感じた。このような児童が主体の取り組みを教育現場で取り組むことで、言語の壁を越えてお互いが分かり合えると確信することが出来た。児童はこの取り組みから、人を偏見で見るのではなく、異文化を受け入れ、良いところを認め、さらには共通点も見出すことが出来た。それまで持っていたメキシコ人に対する悪いイメージが、交流を通して180°変化したことは言うまでもない。この経験とエネルギーが、メキシコにとどまらず世界に向けた国際理解のために生かされていくにちがいないと確信した。



別れる際のメキシコ式のあいさつは「ハグ」



大成功の発表会

### 4. おわりに

この教育実践の中で、私自身も発見と感動の連続だった。日本人が少し勇気をもって世界に目を向けることで、国が違って言語が違ってお互いを理解しあうことができた。ここでの成果を教育現場でもっともっと広げていくことで微力ではあるが国際理解教育に貢献できたらと考える。このたび交流の機会を提供していただき、お忙しい中活動を温かく見守ってくださった同僚の先生、メキシココースα組・β組・γ組の担任の先生、日本語教育部の先生に深く感謝の意を申し上げ指導実践記録のおわりとしたい。